熱気戻る!支・分館スポーツ大会!

吉田支館

山吹支館

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが緩和されたことに伴い、中止や延期が続いていた各地区での公民館行事が活発になってきました。本号では、スポーツ大会をはじめとする分館行事をご紹介します。

たかもり
発行所
長野県下伊那郡高森町
下市田　高森町公民館
発行人
芦部公一
編集
本館編集部
☎35−9416
印刷所
龍共印刷株式会社

駒場分館
駒場分館スポーツ大会

体育部長　上澤　浩

駒場分館では、去る6月4日(日)に分館スポーツ大会を開催しました。コロナ禍で中止を余儀なくされていましたので、実に4年ぶりの開催です。台風の影響による大雨も上がり、気持ちの良い初夏の昼過ぎに、会場の高森北小学校の校庭に子どもも大人も集まり、ペタンクとモルックを楽しみました。モルックは、私は初めての体験でした。フィンランドの伝統ゲームを基につくられた、このニュースポーツは、スキットルと呼ばれる12本の木製のピンに、ゲーム名の由来になっているモルックという木の棒を投げて倒し、得点を競うものです。スポーツ推進委員さんにルールとゲームの進め方を教わり、試合形式で行いました。高い得点のスキットルを狙って、あるいは、いっぺんにたくさんのスキットルを倒そうとモルックを投げるのですが、モルックは球でなく棒なので、適度な偶然性が加わった、とても楽しいゲームです。合計得点が満点の50点を超えると25点に半減されるルールも、ワクワク感を倍増するものでした。グラウンドのあちこちから歓声が上がり、笑顔があふれるひとときでした。

スポーツ大会の後は、これも4年ぶりとなる懇親会でした。駒場の生活改善センターで地区の仲間と杯を交わすのは、本当に久しぶりです。他愛もない世間話と冗談話で大いに盛り上がりました。コロナ禍前は当たり前だった、こうした地域の交流が、とても楽しくまた大切だということを実感しました。良い地区の仲間に恵まれ、まとまりの良い地区であることに、あらためて感謝しました。そして、こうした分館活動の大切さを再認識しました。

今年は、感染症の状況をしっかりと見とどけながら各種事業を実施していく計画です。今後予定している色々な行事が今から楽しみです。

竜口分館
竜口分館モルック大会

竜口分館長　宮島　和宏

竜口分館では、6月4日(日)に常会対抗スポーツ大会としてモルック大会を竜口龍の里会館で行ないました。新型コロナウイルス感染拡大の為、このような地域住民同士の交流の場が設けられるのは実に4年ぶりとなりました。また、竜口地区では今年度常会が一部再編成され、その後初めての大会となり、新たなチーム編成で臨む常会もありました。

このモルックは北欧フィンランド発祥の競技で、棒状の木（＝モルック）を投げて数字の書いた12本のピン（スキットル）を倒し、倒れた本数が得点又は1本倒れた時はピンに書かれた数字が得点となります。早く50点ピッタリとなると勝ちというシンプルなゲームです。ただし50点を超えてしまった場合は25点に減点されゲームが継続されます。

会場には7常会より小学生からご年配の方まで幅広い年代層の選手が集まり、開会式で分館長の挨拶、競技ルールの説明後1試合30分の試合を各常会3〜4試合行い順位を競いました。

この競技の特徴としては、シンプルなルールながら、作戦・技術・運が伴います。自分で目標のピンを決める選手、チームメートに狙いを確認する選手、小学生の参加者には皆でアドバイスを送るなど、声を掛け合いながらのチーム戦が繰り広げられました。

ピッタリ50点獲得し勝利した時は大きな歓声とハイタッチで盛り上がり、50点を超えてしまった時は一気に残念な空気が漂い大きなため息と笑いが起っていました。

各コート熱戦も多数あり、30分で4セット行い50点を4回叩き出し200点獲得して圧勝したチームもあれば、トータル点数がわずか2点差で勝敗が決した接戦もありました。

参加者からは、「ルールが簡単で楽しい」、「もう少し時間が短くてもいいのではないか」、小学生からは「もっとモルックやりたい」などの感想をいただきました。

私の知る限りではモルックを分館行事で行うのは竜口分館が初めてと聞いております。ニュースポーツとして人気上昇が期待されるモルック。多くの町民の皆様にも体験していただき、楽しさを味わっていただければと思います。

下市田6区分館
親睦マレットゴルフ大会を実施して

下市田6区分館長　中垣　裕彦

去る5月21日(日)下市田親水公園マレットゴルフ場にて、親睦マレットゴルフ大会を開催しました。新型コロナウイルスの影響でしばらく開催できず、今回は3年ぶりの開催となりました。未だコロナの影響も少なからず残っており、感染者が当地区でも増加している中、従来行っていた「常会対抗」方式では、ご参加していただく方にご負担がかかるため、今回は個人戦のみとし、事前に申し込みされた方のみの参加という方式といたしました。また、できるだけお子さん達にも地域の方とのふれあいの機会を創出したいという思いから、「大人の部」「子どもの部」を設けて幅広い年齢層のご参加を募りました。

当日は天候に恵まれ、上は84歳のマレットゴルフ歴数十年の大ベテランから、まだ小学校に入学したての7歳のお子さんまで、また老若男女、年齢層ともバランスよく、約40名弱の方にご参加いただきました。開会式では選手代表三浦智さんの素晴らしい選手宣誓により熱戦の火ぶたが切って落とされ、グランドのあちこちでは、歓声やら悲鳴（？）やらが聞こえ、普段あまりマレットゴルフをされない方も徐々に慣れてきた様子で、随所に好プレーを見せていただきました。参加者の組み分けでは、極力同じ組に同じ常会の方が入らないように配慮したため、普段あまり会話をすることもないような方との交流もすることができました。表彰式では、優勝からブービーメーカー賞まで全員の方が商品を受け取ることができるようにし、その他ホールインワン賞（該当なし）、アルバトロス賞といった特別賞も用意しました。ちなみに優勝者は参加者の中で最高齢（84歳）の方でした。

コロナの影響で公民館活動がしばらく制限されてきた中、今回マレットゴルフ大会が開催でき、不足していた地域住民相互の親睦を多少なりとも図ることができたことは大変有意義だったと思います。今後も自治会や地域住民の方々の声を聞き、参加いただく皆様が楽しむことができ、かつ過度の負担をおかけすることのない事業を考えて、今後公民館活動の企画および運営をして参りたいと思います。

下市田1区分館
親子ふれあいウォーキング

爽やかな風が吹き抜ける5月28日(日)、分館としては久しぶりの行事として親子ふれあいウォーキングが行われました。薄曇りではあったものの晴れ間もあり、ウォーキングには最適な天候の中、朝9時に積善会館に集まった家族は7家族21名。飲み物と地図、スタンプラリー用紙が配られ、チェックポイントである南小学校、民俗資料館、役場前、中央公園、そして積善会館までスタンプを押しながら戻ってくる約4㎞のコースでウォーキングがスタートしました。

参加していた宮嶋さんご家族に参加動機をお伺いすると、「コロナ禍で行事がなかったが久しぶりの行事だったので参加したかった。子どもと向き合う時間が欲しかった。」と、お子さんとのふれあいを楽しみたい気持ちが伝わる言葉が返ってきました。

最初に向かったのは南小学校。親子で手を繋いで歩く微笑ましい姿を見ながら、羽根坂を登って北門に設置されたチェックポイントへ。そこにある柿丸くんなどのスタンプを押すと、クイズが配布されました。東門入り口の階段は何段？高森町は何村と何村が合併してできたか？などの問題が出され、子供達が自分の足で数えて回ったりする様子や、子供が親に聞いたりする姿が微笑ましく映りました。

次は民俗資料館へ。富本銭の絵を描こうという用紙が配られ、富本銭を真剣に見つめながら描くお子さんの目がとても印象的でした。

そして後半は高森町役場を経由して中央公園へ、子ども達にはジュースが配られ、遊具やバトミントンなど、親子で遊びながら楽しい時間を過ごした後、最後に積善会館に移動し、子ども達にお菓子と使用したスタンプがプレゼントされ、11時半頃無事終了しました。

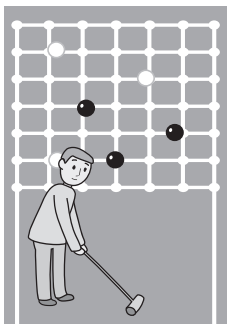
参加した山崎さんご家族に感想をお聞きすると、「普段は車での移動が多いので、歩きながら子どもと楽しい時間が過ごせて良かった。」お子さんも「公園で遊んだのが楽しかった。」という声が聞けました。

ウォーキングではあるものの、その中にスタンプラリーやクイズ、遊具など遊びの要素が取り入れられていて、自然と親子の会話のきっかけとなり、子ども達の笑顔が多く見られるような工夫がされていました。

また、起伏もあるウォーキングは健康にも良く、普段なかなか行かない場所で新しい発見もあり、楽しい時間を過ごすことができました。これからもこの行事の形に拘らず、地域を知り、親子がふれあいながら健康増進に繋がるような行事を継続してもらえたらと感じる一日となりました。

公民館スポーツフェスを開催します！

7月30日(日)に公民館スポーツフェスを開催します。今年度はニュースポーツの「モルック」と「囲碁ボール」を行います。多くの皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは常会文書または町ホームページをご覧ください。



日時　令和5年7月30日(日)　午前9時～正午

種目　モルック、囲碁ボール

開催方式　各チーム、モルック2試合、囲碁ボール2試合の合計4試合

表彰　モルックの部・囲碁ボールの部・総合の部の各1位～3位のチームを表彰します。

内容は変更になる可能性があります。

公民館でモルックを購入しました！

公民館では、新たに室内用モルックを3セット購入しました。モルックは「モルック」と呼ばれる棒を投げて「スキットル」と呼ばれる数字が書かれたピンを倒すゲームです。子どもから大人までどなたでもお楽しみいただけるスポーツです！公民館で貸出を行っておりますので支館・分館のスポーツ大会などご利用をお待ちしております。

その他のニュースポーツ

公民館ではモルックの他にも次のようなニュースポーツの器具をご用意しておりますのでご利用ください。

- ペタンク
- クッブ
- 囲碁ボール
- ボッチャ(屋内用)
- キンボール
- スラックライン
- カーリンコン　等

詳しくは高森町公民館35―9416までお問い合わせください。

まちのとしょかん

レファレンスってなに？図書館をフル活用してみよう！

図書館の重要なサービスの一つである「レファレンス」、聞いたことがない人も多いのではないでしょうか？今回は、図書館をさらに活用できる「レファレンスサービス」についてご紹介します！

みなさんは、「レファレンス」という言葉を聞いたことはありますか？耳なじみが無い、聞いたことがないという人も多いかもしれませんが、これは図書館の重要な業務の一つです。『最新 図書館用語大辞典』（図書館用語辞典編集委員会編、柏書房、２００４年）によれば、「レファレンス」とは、「参考業務のこと。図書館利用者が学習・研究・調査等のために必要な資料及び情報を求めた場合に、図書館員が図書館の資料と機能を活用して資料の検索を援助し、資料を提供し、あるいは回答を与える等、利用者と資料とを結びつける業務」とあります。何だか難しそう…自分には特に必要ないサービスかな、と思ってしまうかもしれませんが、そうではありません。レファレンスとはとても身近な、ふとした疑問を解決できる手段の一つなのです。

実際に図書館には、利用者の方から日々さまざまなお問い合わせが寄せられます。例えば、こんなご質問。「十二支の丑は、なぜ牛ではなく丑という字を使うのか、その理由が知りたい。」これは過去、実際に図書館に寄せられたものです。このときは、暦についての本、漢和辞典などを調べてご提供しました。また最近は、図書館へのお問い合わせをまとめた書籍も出版されています。『図書館にまいこんだこどもの大質問』（こどもの大質問編集部編、青春出版社、２０２２年）という書籍では、子どもからの質問に図書館司書がどう答えたのか、全国の事例が紹介されています。大人が読んでも、「なるほど」と思ってしまうような質問ばかりです。

でもわからないことを調べるだけなら、インターネットの方が早いはずです。もちろん図書館司書も、インターネットを使って調べることも多々あります。ただし、ウェブ情報には注意も必要です。「レファレンス」において大切なことの一つに、「再現性」というものがあります。調べたそのときだけではなく、後で全く別の人が調べても、同じ資料を見れば同じ根拠の情報を得ることができる、ということです。ウェブ情報は、ある日突然削除されたり、書き換えられたりする可能性もあるものです。そのため、レファレンス記録には、ＵＲＬとその情報をいつ閲覧したかという日付を必ず残します。紙媒体、インターネットなど、情報源は多様な時代。それぞれの特性を踏まえながら、図書館司書はみなさんの調べもの、疑問の解決をお手伝いします。

一方で、「レファレンス」では解決できないものもあります。それは例えば、宿題の答え、病気の診断、骨董や美術の鑑定、法律問題など。手助けになる資料や情報を一緒に探すことはできますが、最終的な解決はご自身や専門家に行っていただくものですのでご了承ください。

レファレンスを通じて、町の図書館がより町民のみなさんのお役に立つことを願っています。

こちらの資料は町図書館で借りることができます